

26X

山城国京都飛鳥井雅豊日記目録

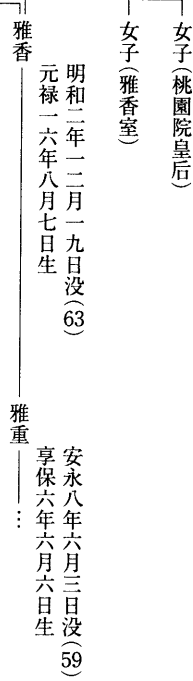
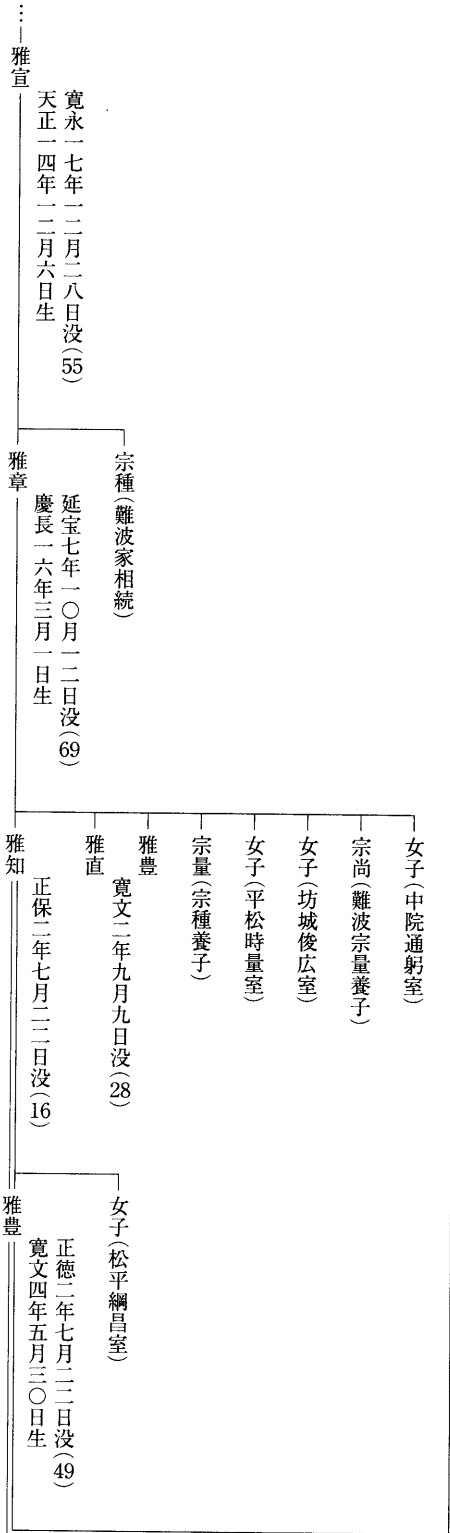
解題……………p. 3

目録……………p. 6

山城国京都飛鳥井雅豊日記目録 解題

- A. 史料群記号 26X
- B. 史料群名 やましらのくにきょうと あすかいまさとよにつき
山城国京都飛鳥井雅豊日記
- C. 数 量 7冊、桐箱(31×24×20cm)1個
- D. 伝来の経緯 1951年度に旧三井文庫から当館に譲渡をうけた。本史料群が旧三井文庫の保管となった経緯については不明。
- E. 出所の歴史 飛鳥井家は本姓藤原氏で、難波頼経の次男雅経(1170～1221)を祖とする堂上羽林家である。雅経は祖父にあたる刑部卿難波頼輔より蹴鞠を伝授された。雅経の孫雅有(1241～1301)が藤原為家に和歌の指導を受けたことから、代々蹴鞠と和歌の道を伝統とし、二条・冷泉家の両家が衰えると和歌の家として台頭した。雅親(1417～1490)は書の道をよくおこない、歴代に伝えたので書の家としても知られる。江戸時代の禄高は928石。初期には、雅宣(1586～1651)・雅章(1611～1679)が武家伝奏を勤めた。明治42年(1909)12月に恒暦(1859～1924)が伯爵となった。菩提寺は遣迎院(京都市北区寺町広小路上ル鷹峯光悦町)。
- 飛鳥井雅豊は、寛文4年(1664)5月30日に生まれ、正徳2年(1712)7月22日に49歳で京都に没した。雅章の3男で、母は越前福井藩主松平忠昌の娘である。兄に雅知・雅直、弟に宗量(難波家に養子)・宗尚(難波家に養子)がいる。のちに兄雅直の養子となり、飛鳥井家を襲いだ。詳細については、後掲の系図と年譜を参照のこと。子は、雅香(西園寺到季の次男)を養子に迎えた。
- F. 年 代 元禄2年(1689)～宝永8年(1711)。
- G. 全体構造と内容 飛鳥井雅豊(1664～1712)の自筆日記。雅豊の日々の活動を中心に、諸家と授受した文書等も書留められている。節会への参加、蹴鞠の記事なども見られる。
- H. 形態の特徴
1. 箱蓋の裏には、三井家の蔵書印と新町三井家八代三井高辰(宗辰)の蔵書印の2つがある。箱には「藤原雅豊日記 七冊」と「ツ印 八十二 七冊」の貼札がある(口絵写真参照)。
 2. 各史料の1丁目には、箱蓋の裏に押下されたものと同一の三井家の蔵書印と三井高辰の蔵書印の2種類が押下され、第1冊の前表紙には旧三井文庫の史料に共通してみられる史料管理番号を付した下札があり、「ツ印 八十二 七冊」と記されている。また、第1冊の表紙右上には黄色の貼札があり、「ツ八十二」とある。
 3. 袋綴帳の料紙には、主に和歌懐紙を紙背文書として用いている。
- I. 整理の方針 史料の表題は、表表紙の書付外題をそのまま採用した。作成者に関しては、表表紙に記載された雅豊の官位を丸カッコ内に補った。形態はいずれも縦帳で、袋綴と列帳綴がある。前者は「袋袋」、後者は「縦列」と表記した。袋綴はいずれも奉書紙を裁断した紙背文書を料紙として利用しているため、形態には法量を記入し、丁数を丸カッコ内に併記した(ただし、表紙を含む)。
- J. 関連史料の所在 当館所蔵の7冊のほかには雅豊日記の存在は知られていない。なお、『国書総目録』第1巻(岩波書店、1989年補訂版、57頁)では、「飛鳥井雅豊日記 1冊」が当館所蔵として紹

〔飛鳥井家略系図〕



出典：「飛鳥井家譜」(東京大学史料編纂所蔵、4175-332)
 注記：雅知の没年は、『宮邸公家家系図集覧』(東京堂出版、1994年)より補った。

山城国京都飛鳥井雅豊日記目録

26X

表題／備考	年代	作成	形態／数量	整理番号
日次	元禄2年1月～2月	飛鳥井雅豊 (左衛門督)	27.2×20.3cm 豎袋 1冊(62)	1
日次	元禄2年3月～7月	飛鳥井雅豊 (左衛門督)	27.2×20.7cm 豎袋 1冊(74)	2
日次	元禄7年1月～6月	飛鳥井雅豊 (従三位行左衛門督)	28.1×21.0cm 豎袋 1冊(80)	3
日次 虫損大	元禄13年1月～12月	飛鳥井雅豊 (正三位行左衛門督)	26.7×20.7cm 豎列 1冊(123)	4
日次	元禄14年1月～12月	飛鳥井雅豊 (正三位行左衛門督)	26.7×20.0cm 豎列 1冊(120)	5
日次	元禄16年1月～12月 (宝永6年カ)	飛鳥井雅豊 (参議兼左衛門督)	26.5×21.0cm 豎列 1冊(132)	6
日次	宝永8年7月～12月	飛鳥井雅豊 (前中納言)	26.8×19.0cm 豎列 1冊(114)	7